

Takashima Toujyu Kai

会報

No. 24

2020.9.18

高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行

NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224

滋賀県高島市安曇川町上小川 225-1

藤樹書院・良知館内

電話・FAX 0740(32)4156

藤樹先生の教えを
まちづくりに

高島藤樹会 理事 保木 隆

私が藤樹会で学ばせていただいているのは、お世話になった松下亀太郎先生の『物語 中江藤樹』を読ませていただいたことがきっかけです。昭和五十五年秋、何度かお宅へお邪魔させていただいた際、参考の書籍が並ぶ日当たりのよい書齋、正座で一心に原稿用紙にペンを走らせる姿を見ました。出版後、先生から直々の手紙をつけて箱入りの書籍を自宅へ届けていただいた私は、通り一遍のお礼の言葉を返したただけでした。そんな私に愛敬の心で接していただき、今は、それに応えたい気持ちで過ごしています。



昭和から平成の
始め頃、
生涯学習
の時代、

生涯学習のまちづくりという言葉をよく耳にした。その後、長い不況、町村合併や行財政改革等が叫ばれた

反面、生涯学習のまちづくりの声は低くなりあわたたしく時が経過した。

高島市は、「生涯学習のまち」へ歩んだのでしょうか。公民館は様変わりし、行事や企画力は陰り、公的社会教育は後退しつつある感を抱かざるをえない。

本市のホームページには、関係箇所以下の方針が掲げられている。「高島の良さである、「あたたかい人間性・地域性」、「中江藤樹先生の教え」を生かしながら、高島の人、心、学校、家庭、地域をつなぎ、郷土高島に誇りを持てる地域ぐるみの教育を推進する。」と。



本藤樹会のビジョンも、「近江聖人中江藤樹先生の『孝』の思想を高島から全滋賀へ…全世界へ広める」である。発足以来、歴代会長のリーダーシップのもと本市の教育方針とほぼ同じ方向で歩みを進め、大洲市との交流も深めてきている。

今後、藤樹先生の「孝」の教えをさらに県下、全国へ広げて行くには、

本会のみで推進するには力の及ばない面も出てくるのではと思われる。

たとえば、藤樹会会員から藤樹先生関連の各団体が力を合わせて「藤樹まつり」的なものを作りたいという構想を示されているが、会として他団体との接点も乏しいため相手の活動や方針が不明で次の一歩が踏み出せていない。

現在の本市に、まちづくりにつながるこのような構想を相談する窓口や共に伴走する仕組みが、私には少し欠けているような気がしてならない。

今後、藤樹先生の教えをまちづくりに生かすには、その部分の行政の手助けが必要ではないだろうか。主役は藤樹会や市民であっても条件整備やコーディネーターの役、時には強力で推進する役割を今後の市行政に期待したい。

『翁問答』等に表示されている藤樹先生の教え、「われも人も、人間のかたちあるものはみな兄弟なり」、「至徳要道…」など、自らを律することを本とする教えは、これからのひとづくり、まちづくりで不可欠なものである。

冒頭に記した、松下先生から「藤樹先生の勉強してや。」と記された手紙を忘れず、藤樹会の発展へ微力でありますが関わって行きたいと思えます。